

やまと
大和

いさお
勲

ふるさとの 群馬の発展願う



やま と いさお
群馬県議会議員 **大和 勲**

今年もよろしくお願ひします。昨年は、県議会議員として10年目の節目の年となりました。お陰様で、昨年9月26日(木)には通算12回目の登壇の機会を頂き、一般質問を行いました。新年号では質問答弁内容の詳細や委員会活動及び地元等の活動を報告させていただきます。

最初に

まず登壇し、多くの傍聴者にお越しいただいたお礼、昨年6月に行った県政報告会のお礼を述べた後、質問席に移りました。



未来構想フォーラム について

最初に山本一太知事に県内12か所で行われたフォーラムの成果について伺いました。多くの県民皆さんに、県の未来構想の提案、市町村長とのディスカッションを聞いて頂き、質疑を通じて直接対話できたことで、大きな成果があったと答弁がありました。私からは、県政の見える化を更に図って頂きたいと要望しました。

次世代産業人材の育成

半導体関連部品を製造する信越化学(株)が、豊受地区国領町の県産業団地に進出することが報道されました。このことを受け、また半導体は今後の産業界のけん引役が期待されることから、県立高校に半導体情報科などを新設改編すべきではないかと教育長に伺いました。教育長からは、社会変化に柔軟に対応し、次世代産業に対応する人材育成がなされるよう、教育の充実を図っていききたいと答弁がありました。



非認知能力育成について

非認知能力とは、偏差値や知能指数など数値で表す認知能力と異なり、これからの時代を生き抜く力や切り開く力のことです。自主性・積極性・創造力などの能力を指します。私は、こども園を運営している立場から、未就学児が遊びを通じて学ぶ大切さが重要だと認識しています。そこで、未就学児の非認知能力育成について知事に伺いました。知事からは、日本から唯一、群馬県としてOECDの社会的情動スキルや非認知能力の調査に参加することをはじめ、子どもたちは一人一人が可能性の塊であって、その可能性をいかに広げていくかが大事であり、変化の激しい時代だからこそ、一層非認知能力育成に努めると答弁がありました。



また、生活こども部長からは、子どもたちが主体的に遊び、学びにつながるよう、保育所・こども園等の保育士等に対する階層別研修などで、発達段階に応じた適切な支援方法などを学ぶ機会を提供して、さらに今年度は、施設長研修を通じて非認知能力の理解を深めたいと答弁がありました。

多文化共生の推進

昨年4月に今泉町1丁目にある県総合教育センター内に新規開校された夜間中学「県立みらい共創中学校」について、現状などを教育長に伺いました。各学年35名の定員105名で、現在の生徒数は57名である(初年度なので1年生中心)。市町村別では、伊勢崎市が一番多く、太田市が続ぎ前橋市・大泉町等となっています。年代別では、10代が一番多く、20代から70代まで満遍なくおり、日本を含めて13か国の国籍の生徒が在籍していると答弁がありました。加えて、国籍や年齢、学習経験等が様々で、多様な背景を持った生徒が、教職員や仲間の話に熱心に耳を傾け、意欲的に学びに向かっている様子が報告されました。

次に、外国人県民と地域との共生について地域創生部長に伺いました。私からは、外国人県民が積極的に地域の役員など引き受けるなど地域貢献が見える様子が重要で、地域は受け入れる環境作りが求められているのではないかと提案しました。同部長からは、これらの成功事例や有効性を発信し、全県に広めたいと答弁がありました。



裏面につづく

